


食育事業取組報告書(豊浦小)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	R7年5月～7月
教科名	生活科 / 学級活動	指導者	教諭 栄養教諭 栄養士
単元名	めざせ 野菜作り名人 / やさいパワー大発見		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を育てる活動を通して、適切な世話の仕方を知り、それらは生命をもっていることや生長していることに気づき、植物を大切にしようとする気持ちを高める。(生活科) 野菜が体にとって大切な働きをしていることを知り、好き嫌いせず何でも食べようとする。(学級活動) 		
	児童・生徒の活動	支援・指導上の留意点	資料
	<ul style="list-style-type: none"> 育てる野菜を決め、願いをもたせる。 苗植えをする。 野菜の世話(水やり、間引きなど)をする。 観察を継続し、生長を観察カードに記録する。 栄養教諭と野菜の働きについて学習する。 収穫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> どのように育てほしいか、どのように食べたいかなどを考えさせる。 全員がミニトマトを鉢に、自分の好きな野菜の苗を畑に植える。 地域コーディネーター、学習支援サポーターに苗の植え方を教えてもらう。 毎朝、登校後に自主的にできる仕組みを整える。 児童の声をよく聞き、困ったこと・心配なことが出たときには、地域コーディネーターや苗屋さんに相談できるようにする。 国語の「かんさつ名人になろう」単元と関連させ、野菜の変化を振り返ることができるように記録させる。 学年の実態を踏まえて、授業の内容を相談しながら計画する。 授業後、学習内容を保護者に知らせ、ワークシートにコメントをもらうことで、学校・家庭で連携して野菜を食べようという意欲を育てられるようにする。 収穫した野菜を家族とどのように食べるか考えさせる。 	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 生活科と学級活動を関連付けて学習したことで、「野菜を食べよう」という意欲を育てることができた。 昨年の反省(トマトやきゅうりがカラスに多くやられ、収穫が難しかった)を踏まえて、野菜を決めたため、どの児童も収穫の喜びを味わうことができた。 ▲オクラが風の影響を受けたためか、生育状況が悪い児童もいた。野菜の配置についても、事前に助言をもらうとさらに安心して育てられると思う。 		
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して地域コーディネーターや苗屋さんと連絡を取り合うことで、児童・職員が困ったり悩んだりした場面で、世話の仕方について助言をもらうことができ、安心して育てることができた。 野菜作りの様子をたよりなどで家庭に連絡することで、家庭でも話題にしてもらい、「(苦手だった)野菜を食べやすいように調理した」「親子で調理に挑戦した」など、あたたかい協力を得ることができた。 		